

大好評
発売中

特別付録

「元禄九年新撰増補大坂大絵図」

大判の折込み古地図



定番下屋敷・算用所

この名所「定番敷」の口前には「算用所」(左図)は、算用曲輪とも呼ばれた。この口前には「丘崎寄道」には名の由来について、代の大坂築城のとき、ここに諸費用の算用(計算)に飯屋が建てられたという話が載っている。江戸時代は馬場になった、杉の木がゆかに繁るようになる。と杉山の俗称で親しまれた「摂津名所図会」でも絵入りで庶民の行楽地として紹介されている。図にも算用所の左に丘の絵が描かれているように、この名所は緑の木の間から眺めを楽しんだのである。



大坂城

アイコンになっ
の大坂城は、外堀
高責任者にあたる
敷、城代を補佐す

本渡章



カラー版
大阪
古地図
むかし案内
江戸時代をあるく

に備えた情報管理は行われていたのである。

上図の「玉造口」に見えるのが玉造門。以下左へ一番から七番までの七つの橋、大手門、千貫橋、神橋、乾橋、京橋、伏見橋、青屋橋、寝橋、長橋があったが、絵では一部が省略されている。古地図のなかの絵は、写実性よりも視覚的な効果を求めて描かれた。大坂は幕府直轄地、大坂城を治めるのは本来、将軍だった。城の絵は、城下町大坂のいわばアイコンとして描かれたのである。

*1 将軍御簾...大坂城の城主は将軍である。将軍不在のときに大坂を治めるのは、幕府の代官である。将軍御簾は、将軍の御簾を模したもので、大坂城の城主は将軍の御簾を模したものである。

*2 城絵図...大坂城の城絵図は、将軍の御簾を模したものである。将軍御簾は、将軍の御簾を模したものである。

独自の趣向
「読み解きスタイル」
ですみずみまで
解説!!

第一図
城と武家屋敷



俯瞰と部分拡大の
カラー古地図を
約150点収録

貴重な元禄古地図を中心に
部分拡大図版を約150点収録
江戸時代の代表的な絵図を細部まで読み解き、
虫眼鏡ですみずみまで鑑賞するような趣向
で味わい尽くす初の本。

特別付録

大判の折込み古地図

「元禄九年新撰増補大坂大絵図」

定価(本体2,300円+税)
A5/並製/192頁

江戸時代をあるく

カラー版 大阪 古地図 むかし案内

本渡章【著】

江戸時代の古地図を
すみずみまで探訪

江戸時代の貴重な古地図を、虫眼鏡ですみずみまで鑑賞する。かのような趣向で味わい尽くす。大阪の歴史文化や地理地形もわかる案内書。部分拡大のカラー古地図を約150点収録。

創元社